

「国立台湾大学スプリングスクール
参加報告書」

京都大学法学部3年 (ミロノワ・アンナ)

①今回は初めて台湾に行きました。以前は中国に行ったことがありましたが、台湾は言葉も文化も歴史も大陸中国と非常に異なっており、驚きました。今回のプログラムに参加する前に台湾についての知識がほぼありませんでしたが、台湾での3週間を通じて、中国語だけではなく、台湾の文化などについてもたくさん学びました。私が特に驚いたのは、台湾と大陸中国の中国語の違いでした。文字だけではなく、発音も違っており、また、中国では使われていない表現もたくさんありました。

このプログラムに参加して、台湾への理解が深まり、台湾への興味がさらに増しました。今後また機会があれば、もう少し長く滞在し、台湾についてももっと勉強したいです。

②台湾で一番記憶に残っているのは人の優しさです。台湾大学関係者や学生ボランティアももちろんそうでしたが、普通の店の店員さんなども非常に親切で、つたない中国語で話しかけても聞いてくれて、手伝おうとしました。自分の言いたいことが相手に伝わると、中国語への自信も増しました。そのため、プログラムの最初のほうはかなり英語を使っていたのに、最後はすべて中国語で言うようにしていました。

③3週間の短期留学プログラムでしたので、午前中は中国語の授業があり、午後は台湾の文化についての授業がありました。午後と土曜日にはフィールドトリップもありました。

台湾に着いた翌日に中国語の試験(筆記試験と面接)があり、中国語のレベルに応じてクラスに分けられました。ひとクラス4-5人の少人数で中国語を勉強しました。中国語はこれまで簡体字で習っていたので、最初は繁体字が読めず苦労しましたが、すぐに慣れました。先生の説明は非常に丁寧で、わからないところがあれば何回も聞くことができました。授業では教科書を使って単語や文法を勉強したり、教科書のテーマについてディスカッションしたりしました。少人数のクラスでしたので、授業中たくさん発言する機会があり、3週間という非常に短い期間だったにもかかわらず、中国語のレベルがかなり上がったと感じています。また、プログラムの最終日には中国語の勉強の成果を見せるため、一人5分のプレゼンテーションをしました。

台湾大学の学生ボランティアもほぼ毎日ついており、生活面などで困ったことがあれば手伝ってくれました。

④私は今法律を勉強しており、将来は国際企業取引等を扱う弁護士になりたいです。そのため、中国語と中国や台湾の文化についての知識が必要になると思います。今回の台湾大学での経験は将来の仕事に非常に役立つと思います。